

# 新しい時代にふさわしい 学校教育の実現に向けて

文部科学省 初等中等教育局  
教育課程課 教科調査官  
**水谷 尚人 氏**



## 教育隨想

昨年十二月二十一日、中央教育審議会において、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が取りまとめられました。これにより新しい学習指導要領等が間もなく公示されようとしています。

私が大学を卒業した平成四年はちょうど平成元年改訂の学習指導要領が実施される直前でした。「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」、「基礎的な内容の指導の徹底」、「個性を生かす教育の充実」、そして観点別評価などが話題となつた頃です。当時の大学院入試で「課題学習（数学）について分からぬままに解答したこと、引用した「新しい学力観」の新しさをゼミで答えることができなかつたことなど、少しばかり恥ずかしい思いが今でも蘇ります。また、平成十二年、愛知県を離れ中学校教員として働くことが決まった際に



平成29年3月1日

## 3月号

発行・編集  
**岡崎市教育委員会**

### 今月の紙面

教育隨想 ..... 1

文部科学省 初等中等教育局  
教育課程課 教科調査官  
**水谷 尚人 氏**

この人に聞く ..... 2

建築家 柴田 達志 氏

羅針盤 ..... 2

理科指導員 池田 芳浩

ふれあい ..... 3

城南小 中根 優子

特集 ..... 4

一年のあゆみ

お知らせ ..... 6

フォト・ヒストリー ..... 8

竜美丘小学校完工式・

開校記念式（昭和51年）

この本を ..... 8



新しい時代にふさわしい学校教育を実現するためにも、変化する社会の文脈の中でこれまでの教育で大切にしてきたものを改めて捉え直してみたいものです。多くの人の思いが詰まった新しい学習指導要領をたくさんの方々と共有できるよう私自身も全力を尽くしていきたいです。  
(みずたに なおひと)

高校は工業科へ、大学は建築科へ進学した。建築関係の会社に就職後、数年で独立し、建築事務所を構える。しかし、自分自身に疑問を感じていた。「設計案はいくつも立つのですが、施主に決めてもらおうとする自分に問題を感じていました。自信をもつて提案できていなかつたのです。」

そこで、事務所をたたみ、有名な設計士に学ぼうと弟子入りをする。「自分の未熟さを痛感しました。自分でよいと思った設計が認められず、悔しい思いをすることもありました。苦情を受け、つらい思いもしました。でも、続けるうちに、これだという発想に恵まれることもありました。そのおもしろさから、建築についてのアトリエが建つ。木の持ち味を生かすように淡く塗られた柱や梁が印象的で、冬だというのに陽光が明るく差しこみ、温もりを感じる空間である。柴田氏は大工の家に生まれ、幼いころは身近にあつた木切れを積んで遊んだ。材木の匂いに居心地のよさを感じて育つた。

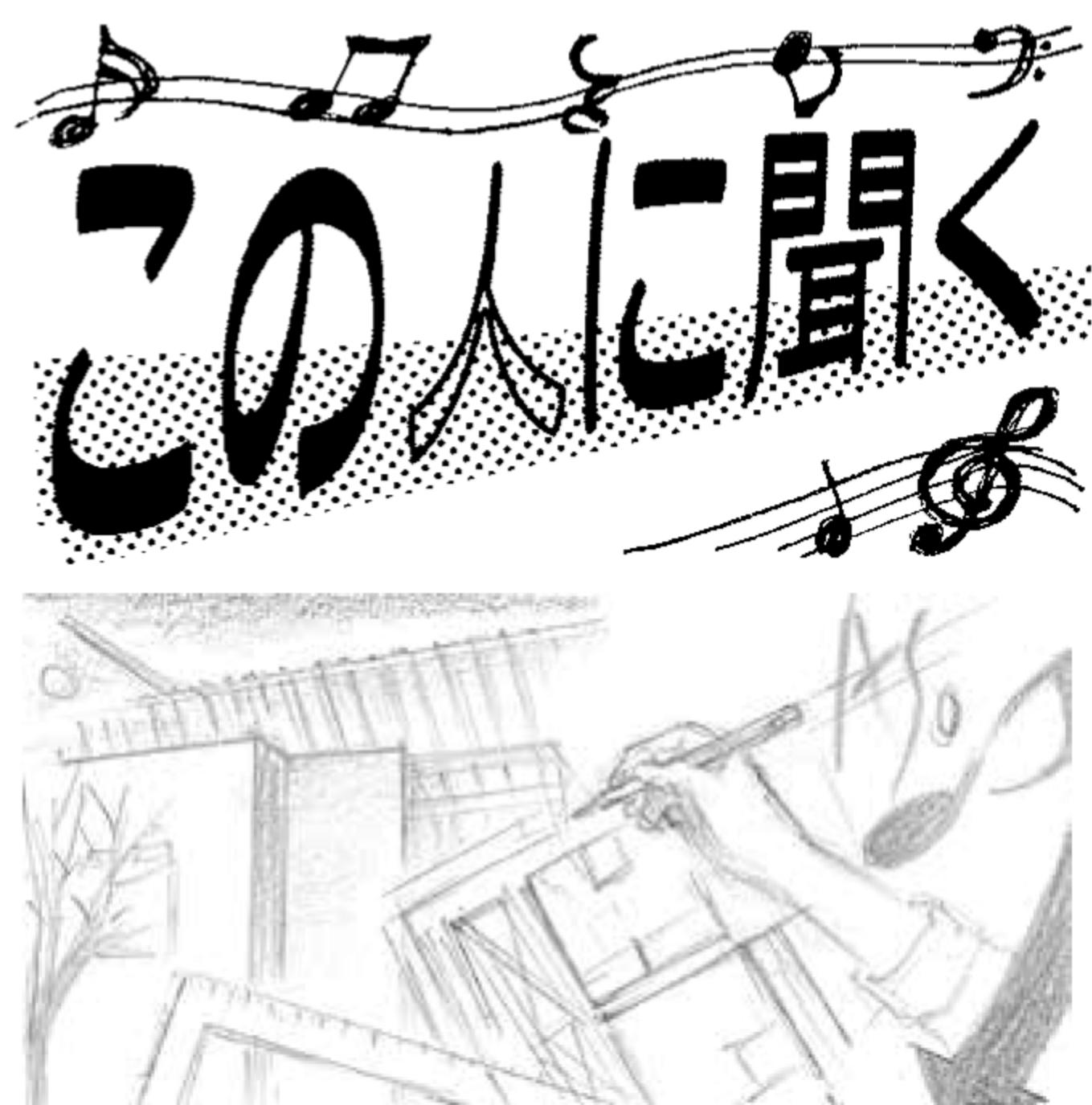
一九七〇年、小学校の高学年だった柴田氏を、大阪万博が魅了した。「楽しくて、連れて行つてくれる人を探して、十回以上は通いました。空気で膨らませたドーム状の建物やカプセルを積み重ねた家を見て、宇宙都市も夢ではないと思いました。」

建築には施主とのコミュニケーションが、おもしろく、飽きないのであります。」

## 人に寄り添い 笑顔を生み出す「匠」

建築家

**柴田 達志 氏**



高校は工業科へ、大学は建築科へ進学した。建築関係の会社に就職後、数年で独立し、建築事務所を構える。しかし、自分自身に疑問を感じていた。「設計案はいくつも立つのですが、施主に決めてもらおうとする自分に問題を感じていました。自信をもつて提案できていなかつたのです。」そこで、事務所をたたみ、有名な設計士に学ぼうと弟子入りをする。「自分の未熟さを痛感しました。自分でよいと思った設計が認められず、悔しい思いをすることもありました。苦情を受け、つらい思いもしました。でも、続けるうちに、これだという発想に恵まれることもありました。そのおもしろさから、建築についてのアトリエが建つ。木の持ち味を生かすように淡く塗られた柱や梁が印象的で、冬だというのに陽光が明るく差しこみ、温もりを感じる空間である。柴田氏は大工の家に生まれ、幼いころは身近にあつた木切れを積んで遊んだ。材木の匂いに居心地のよさを感じて育つた。

「葉緑体一粒一粒が大切なんだな」と柴田氏は、講演や大学での講義へと、活躍の場を広げている。「建築をおして多くの出会いがありましたが、人とのつながりを大切に、自分らしく生きていきたい。これからも、匠として、人の笑顔を生み出す営みは続く。」

## 問題意識を高め、 主体的な追究から、 自然に対する考え方を深める

理科指導員

**池田 芳浩**

氏名 しばた たつし  
生年月日 昭和三十三年七月十日  
住所 岡崎市戸崎町



「葉緑体一粒一粒が大切なんだな」と柴田氏は、講演や大学での講義へと、活躍の場を広げている。「建築をおして多くの出会いがありましたが、人とのつながりを大切に、自分らしく生きていきたい。これからも、匠として、人の笑顔を生み出す営みは続く。」

「葉緑体一粒一粒が大切なんだな」と柴田氏は、講演や大学での講義へと、活躍の場を広げている。「建築をおして多くの出会いがありましたが、人とのつながりを大切に、自分らしく生きていきたい。これからも、匠として、人の笑顔を生み出す営みは続く。」

高校は工業科へ、大学は建築科へ進学した。建築関係の会社に就職後、数年で独立し、建築事務所を構える。しかし、自分自身に疑問を感じていた。「設計案はいくつも立つのですが、施主に決めてもらおうとする自分に問題を感じていました。自信をもつて提案できていなかつたのです。」

「施主とじっくり話して相手の本音引き出します。土地と暮らしを深く理解するために何度も現地に足を運びます。そして、相手を好きになるのです。苦情も、見方や発想を変え好機です。住む人の笑顔がうれしくて、私が涙することもあります。」

「葉緑体一粒一粒が大切なんだな」と柴田氏は語る。



A男が教室で長く過ごせるようになるのだろう。クラスの仲間と一緒に過ごすことの楽しさや、いろいろなことができるようになる喜びを、ぜひ味わってほしいと思った。

ある日、A男が一人で自由帳に絵を描いて遊んでいた。「うまいね」と声をかけると、自由帳を見せてくれた。A男は絵が好きだ。もしかしたら、図工ならやる気をもつて取り組めるかもしれない。試しに五時間目を図工にしてみることにした。

廊下で窓の桟にしがみ付き、母親の車が遠ざかっていくのを、A男がじっと見つめている。その頬には、涙の流れたあとが残っていた。

A男が二年生に進級して、一ヶ月が過ぎようとしていた。一年生のころA男の席は窓際の一番後ろで、傍らには常に母親が寄り添っていた。二年生への進級を契機に、母親とA男は、付き添いは廊下までと約束をした。しかしA男は、昇降口で親から離れられず、大泣きをした。ときには親の荷物を教室に持ち込んで、帰さないようにすることもあった。

四時間目の途中で登校し、給食と清掃活動、休み時間を過ごすと、五時間目が始まる前にはランドセルを背負つて「帰ります」と伝えにくった。そんな日が続いた。どうしたら

## 涙のあとに

城南小  
中根 優子



A男は足が速いね。頑張れ。」「A男は足が速いね。頑張れ。」一緒に走りながら声をかけると、ぐんと加速した。そして、マラソン大会で見事に入賞を果たした。表彰式では、大きな声で返事をするA男の成長ぶりに胸が熱くなつた。

三年生になつたA男とは、今でも時々廊下ですれ違う。今日はボールを抱えている。友達と運動場へ向かうようだ。目が合つと、につこり笑つて、「先生、こんにちは。」と挨拶をした。不安になつて泣き出していたころの面影はもうない。友達と一緒に過ごすことを楽しむ満面の笑顔があつた。

十月になり、おかげきつ子展の作品を作ることになつた。何を作ろうかと困っているA男に魚の図鑑を見せると、マンボウを気に入り、夢中で作り始めた。そして、スパンコールの飾りをうろこに見立てたすてきな作品ができあがつた。「きれいだね」と褒めると、周りの友達が「すごい」と集まってきた。友達に促されて、A男ははにかみながら魚の説明を始めた。その表情から、クラスの友達



に認められた喜びが伝わってきた。

その後、A男は友達から長縄跳びや鬼ごっこに誘われて、休み時間を一緒に過ごすようになった。ついには、マラソン大会に向けた耐寒かけ足にも積極的に参加し始めた。

「A男は足が速いね。頑張れ。」

三年生になつたA男とは、今でも時々廊下ですれ違う。今日はボールを抱えている。友達と運動場へ向かうようだ。目が合つと、につこり笑つて、「先生、こんにちは。」

と挨拶をした。不安になつて泣き出していたころの面影はもうない。友達と一緒に過ごすことを楽しむ満面の笑顔があつた。

教師は、「では、葉のどこで行われるのか」とさらに発問を続けた。この「葉のどこで」という言葉は、生徒たちに、光合成が実際に行われている場所について、微視的な視点を与えるきっかけとなつた。生徒らは、顕微鏡を用いて葉の細胞を観察し、色鮮やかな緑色の粒（葉緑体）を発見する。生徒Aは、「葉の葉緑体で、光合成をする」とノートにまとめた。

教師は、生徒の植物への視点を確かなものにするために、ミドリムシの仲間であるクラミドモナスを提示した。単細胞生物であり、当然、根・茎・葉のつくりはない。生徒は、クラミドモナスを顕微鏡でのぞきながら見守つていたが、何とかその日の図工の授業を受けることができた。そして、これをきっかけに午後の授業を受けてから帰るようになり、教室で過ごす時間も長くなつていった。

生徒Aは「葉がなければ光合成ができないと思っていたけど、クラミドモナスが光合成をしていると分かって驚きました」と振り返り、「葉緑体一粒一粒が大切」と結んだのだ。

ミクロの世界で発見した葉緑体の営みに驚き、植物に対する見方・考え方を深めた姿であつた。

現在、学習指導要領の改訂に向けて、「理科の見方・考え方」を働くせながら、理科における資質・能力を育成することについて議論されている。生徒の心を揺さぶり、主体性を高めることで、自然事象に向き合う生徒が、質の高い追究を行い、実感を伴つて理解を深めていくように支援し続けたい。







## ● 表彰

- ◆全国中学校体育大会・全国中学校スケート大会 ○フイギュアスケート男子 二位 龍海中 壱井 達也
- ◆青少年読書感想文全国コンクール 每日新聞社賞 入選 秦梨小 安藤 桜香 六ッ美那部 伊奈 咲歩
- ◆青少年読書感想文愛知県コンクール 愛知県教育委員会賞 入選 秦梨小 安藤 桜香 六ッ美那部 伊奈 咲歩
- ◆東海アンサンブルコンテスト 優秀賞 井田小 尾崎 瑞菜 秦梨小 安藤 桜香 三島小 判治 孝哉
- ◆愛知県学校図書館研究会賞 三島小 判治 孝哉
- ◆愛知図書館協会賞 金賞 金賞
- ◆全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト愛知県大会 優秀賞 広幡小 滝本 栄佳 甲山中 水野 栄佳
- ◆読書感想画愛知県コンクール 優秀賞 羽根小 加度ひなた 遠山 結香
- ◆優良賞 (全国へ) 春水 吉鷹 弥々

- 小学校の部 優秀賞 大樹寺小 管打八重奏 ○中学校の部 金賞 北中 管打八重奏
- ◆岡崎市小中学校読書感想文コンクール 市長賞 甲山中 秦梨小 水野 桜子 六ッ美中部小 伊奈 咲歩 六ッ美中 安藤 桜香
- 個人の部 金賞 (県大会出場) 竜美丘小 中村 奏帆 竜海中 金管八重奏
- ◆中学校部門 金賞 (県大会出場) 竜美丘小 中村 奏帆 竜海中 金管八重奏
- 小学校部門 金賞 (県大会出場) 竜美丘小 中村 奏帆 竜美丘小 中村 奏帆
- ◆教育フェア 振興協会長賞 南中 三輪 愛莉 城北中 月山 雄斗 美川中 大西ひなの
- ◆全国中学生創造ものづくり 優秀賞 成田 桃花 矢作北中 日比野妃莉 美川中 岡田 桃菜 美川中 山西 詩菜 美川中 岡田 桃菜
- ◆全国中学校産業教育教材 優秀賞 多々内風花 矢作北中 日比野妃莉 美川中 岡田 桃菜 美川中 岡田 桃菜
- ◆上廣道徳教育賞 優秀賞 楠原 朝子 成田 桃花
- ◆中部日本管楽器個人・重奏コンテスト 西三河北地区大会 ○重奏の部
- 活用部門
- 審査員特別賞 常磐中 深田脩斗 山本 茜
- 小学校部門 金賞 (県大会出場) 竜美丘小 サキソフォン五重奏
- 中学校部門 金賞 (県大会出場) 美川中 クラリネット八重奏
- 金賞 (県大会出場) 新香山中 サキソフォン四重奏
- 審査員特別賞 常磐中 深田脩斗 山本 茜
- 活用部門 五位 常磐中 山口優器 中根聖斗

## ● ハートピアだより

### 卒業を祝う会

二月二十日、ハートピアでは、通所している中学三年生のための「卒業を祝う会」を行いました。三十分ほどの短い会ですが、通所している生徒にとつては節目となる大切な会です。生徒の在籍する学校の校長先生や担任の先生に出席をいただきました。

この会では、三年生一人ひとりが後輩に向けお別れの言葉を話す場面があります。自分の思いをうまく表現できず、他人とのコミュニケーションが苦手な生徒にはつらく緊張する場面です。大きな声ではつきりと伝えることができません。「ありがとうございます」という

この日の卒業を祝う会をはじめ、ひまわりタイムなどハートピアでの数多くの活動経験は三年生にとつて大きな財産となるにちがいありません。

この姿を見てきた職員には大きな成長を感じる場面でした。この日まで、中学三年生限定で行ってきた活動があります。十一月から二月まで毎週二回行つた「ひまわりタイム」です。午前の学習の時間を使い、進学に向けての基礎的な学力をつけること以外に、臨床心理士の先生が生徒の中に入り、自分の思っていることを相手にどう伝えるか、他人とのコミュニケーションで気を付けすることは何かなどを考え実際練習する活動です。その成果の一つがお別れのことばなのです。





カ  
ツ  
ト  
常  
磐  
中  
中  
根  
勅  
子

## 竜美丘小学校完工式・開校記念式 (昭和51年)

写真提供：竜美丘小学校

昭和五十一年八月二〇日、竜美丘小学校完工式・開校記念式が、盛大に行われた。市内三十七番目の小学校となつた。写真は、式当日の児童の様子である。

この年の一学期はまだ、羽根小、男川小、三島小の三校に分かれて学んでいた。夏休み、PTAや学区の支援を得て、机を運び開校準備に汗する子供たちの姿があつた。

「わたしたち六年生は、何百年と続していく竜美丘小学校の歴史の第一歩をつくるわけです」これは、開校記念式の日に六年生が記した一文である。

同校は、地域や子供たちの夢に満ちた開校から今年で四十周年。こうして、岡崎の小中学校では、伝統が日々紡がれる。



遠い昔の記憶がふとよみがえる。  
学校に行くのが憂鬱だったあの日、  
登校の足取りがなんと重かつたことか。  
悩みを抱え、一步を踏み出せない子供  
に必要なのは、特別に飾った言葉掛けで  
なく、子供たちの気持ちに共感し、寄り  
添う姿勢から生まれる一言なのだろう。

膨らみ始めた桜の蕾に、春の訪れを感じる。風雪に耐え、春を待つ蕾に、開花への強い意志がある。

桜が満開になるころ、卒業生たちは、新たな道へと踏み出す。それがどんな道であれ、立ち止まることなく前向きに歩んでほしい。

**ど  
も  
弥  
生**



夢をのせてバルーンリリース（翔南中）

つながりを大切にし、つながった人々学ぶために、音楽活動にも勤しむ柴田氏。アトリエには、仲間とライブを行うギターが並ぶ。異業種の人々との音楽活動が、建築の匠として、そして、人間としての感性を豊かにしていく。

交友を広げ深める春が来る。



\* どうでもいいことで悩まない技術 柿木 隆介  
文響社 ¥1,280

心に残った一文  
「怒るのは人として未熟だからだ」と、言い聞かせる。

医師という仕事を通じて、患者の様々な悩みに出会ってきた著者は、薬や手術で解決できる問題もあれば、できない問題もたくさんあることを知った。さらに、脳科学者という立場になってからも、人の数だけ悩みがあり、その深さも様々であることを痛感したという。

私たちは、いろいろな問題に直面しながら、日々尽きることのない悩みと戦っている。しかし、本書にある「脳の力を活かした31のトレーニング」を読むと、たいていのことになら順応できそうな気がしてきた。著者の提案する「悩みやストレスを気にしないでもいい方法」を理解し、人生を肯定的に捉える一助としたい。

\* 吉田松陰の魂が震える言葉 人は必ず伸びる 野中根太郎  
アイバス出版 ¥1,200  
\* 素質と思考の「脳科学」で子どもは伸びる 林 成之  
教育開発研究所 ¥1,800  
\* 防げ！学校事故 第一法規 内野令四郎  
¥1,800

竜海中 加藤 勝巳